



平成24年12月15日

2	3	4	5	6	7	8
面	面	面	面	面	面	面
松川高校前壁画	公民館のルーツをたどる	みんなで仲良く	青年の家だより	まつかわ大学・スポーツ	ひとスポーツフエスティバル	こどもの詩・俳句・短歌
						視点・声・べんべん草



まつかわ百景 ⑥7

「光のオブジェ」

無数の小さな光が集まって家を光のオブジェに変える。
この季節だけの夢のプレゼント。(福与福沢 新田通夫さん宅)

私は昭和21年元大島新井北部で生を受け高校を卒業し、社会人となり、約半世紀ぶりに我が愛する郷土へともどつてまいりました。社会人となつて48年間仕事上大勢の方々にて御世話になり各地で生活してまいりましたが、この5月中荒町へ引越つて現に在に至つています。松川町で会う友人、知人からなぜこの地を選んだかと聞かれますが、その理由は、東は南アルプス、西は中央アルプスに位置し、なんとすばらしい光景かと素晴らしさにほれ、まさに日本一ではないかと思ひます。作物は太陽・空気・水・土の自然の恵みを受け春は梨・林檎・柿・桜の花の美しさ又実りの秋は味の良さこれもまさに日本一ではないかと自負しています。夏の夜空は花火の美しさ、冬の夜空は星空の素晴らしさそんな町で生を受けたことを誇りに思い再び松川町に移転してまいりました。他の地方から来た

主張

半世紀ぶりに愛する郷土へ 松川町にたいする我が思い

人々が一番に驚かれるのが、梨・林檎などが道端の畑で盗まれることもなく実っていることです。まだあげれば数々ありますが、松川町の皆さん自慢してください。そんな理由で我が最後の余生をこの地で送ることにしました。人生90年は針の一点です。人間は宇宙自然の法則に従つて生きることが最良の生き方で、いかなる事に対しても相手の気持ちになつて考え、思いやりの心で相手のことを思うことが一番の幸せと思つ今日この頃です。

最後に私の夢は、15年先はリニア中央新幹線もこの伊那の地を走り東京へわずか1時間で結ばれる時代……そんな折日本列島の中心松川町付近へ東京から中央機関を移転してくるようにすればこの松川町の人口も増加し企業も益々潤うのではないかと思ふ次第です。こんな私の夢を松川町の皆様方に訴えて終わりに致します。

浅野 照雄(中荒町)



松川高校美術部の生徒たちが制作してきた、校門前の道路沿いの壁に描いてきた壁画が、10月に完成しました。

壁画のテーマは「生命の誕生」という壮大なものです。向かって右から【過去】【現在】【未来】と、つながりをもっています。



この壁画には、住民のみなさんの憩いの場にしたいという思いがこめられています。そのため、制作にもできるだけ地域の人たちに関わってもらおうと、公民館に声がかかりました。公民館としても、若者が地域活動に関わることで少ないといわれる中で、どのようにして公民館活動に目を向けてもらったらいいかという課題を本館の社会部で話し合っていたところだったので、積極的に関わっていいことになりました。

また、松川町にはやまなみ美術会という文化協会所属の団体があり、その方たちにも公民館から声かけをしたところ、「今まで30mもある大きなキャンパスに描いたことがないため、スケールの大きさを



描く前の教員住宅の壁面

にとでもワクワクする。高校生の思いや活動を大事にしながら、何か私たちにできることがあればお手伝いしたい。」と快く引き受けてくださいました。こうして、松川高校美術部、公民館本館社会部、やまなみ美術会の3団体による壁画制作がスタートしました。



打ち合わせ・下見

壁画の制作が始まったのは去年の夏のことです。8月8日に3つの団体が松川高校に集まって、活動をどのようにすすめていくか話し合いました。また、実際に絵を描くところの下見をしてみんなでイメージを膨らませました。



現場を下見してイメージをふくらませる



打ち合わせ後、さっそく作業に取りかかる

地塗り

打ち合わせをした日の午後、高校生が中心となってさっそく制作にとりかかりました。最初は、壁画の色がきれいでるようにするため、壁面の下地に白色のペンキを塗る作業にとりかかりました。暑い時期でしたが、夏休みを利用して毎日のように地塗り作業をし、本館社会部のメンバーも一緒に取り組みました。



壁面を白色のペンキで塗る



デザイン案の検討
 8月中に地塗りが終わり、9月にはデザイン案の検討に入りました。美術部から、数年前に新井の商店街のところに描いた絵とはまた違った雰囲気のものにしたいという意見が出されたり、やまなみ美術会からは、せっかくなら抽象的なテーマにするのも面白いのではないかとといった意見も出されたりしました。話し合いの結果きまったテーマが、「生命の誕生」です。

10月の町の文化祭の時、デザインの原案をやまなみ美術会の方々にもみていただき、描き方や表現の方法、色のイメージなどのアドバイスをしてもらいました。



「生命の誕生」をテーマに、デザイン案を考える高校生



下書きのはじまった壁面を、やまなみ美術会の皆さんと一緒に確認。

声をかけられたりもしました。11月1日、いよいよ壁面にチョークをつかってデザインの下書きをはじめました。この壁面は北小学校の児童の通路に面しており、小学生から「何を描いているの?」と声をかけられたりもしました。

12月に入って、実際に色を塗り始めました。寒い時期にもかかわらず力を合わせて取り組みましたが、日が暮れるのがはやくなつてしまったことや、美術部のメンバーに生徒会役員が多く、時間の都合がなかなかつけられなかったこともあって、年度中の完成には至りませんでした。

その後、卒業してしまつたメンバーの思いを受け継ぎ、今年の夏休みから現在の部員9人で壁画の制作を再開。現在の部員で去年も制作に関わっていた3人がリードしながら描いてき



再開された色塗りは、互いに協力し合ってどんどんと作業がすすんでいった

ました。キャンパスが壁であることから垂直になつてい部分に絵を描かなければならず、絵の具が垂れてしまう難しさなどもありましたが、社会部も色塗りを経験させてもらつたりしながら、今年の10月、ついに壁画が完成を迎えました。

完成後、やまなみ美術会のみなさんにも壁画を見てもらいました。「下絵以外では指導もしていないが立派な作品ができた」と絶賛されました。

松川高校の前を通れば必ず目に留まる長い壁画。無機質な壁に、生徒たちの手によつて「生命」が誕生しました。



下書き

色塗り

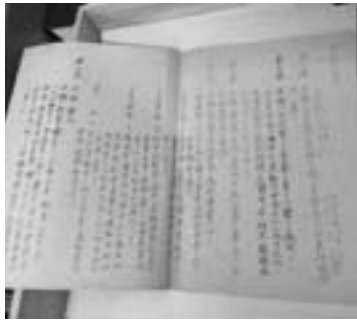
妻籠へ ～公民館のルーツをたどる～

編集部では、「公民館報って何だろう」というテーマで座談会を開くなど、これまで公民館の意義について考える学習会を行ってきました。今回は、その一環として日本で最初に設立されたともいわれる妻籠公民館設立の経緯から、戦後混乱期にどのように設立されたのか、そこにはどのような願いがこめられ、どのような活動が展開されてきたのか、発祥の地である南木曾町妻籠宿を訪ね、「そもそも公民館活動って何だろう？」という事を考えてみたいと思います。

妻籠公民館の成り立ち

戦後荒れ果てた国土を再建すべく、「公民館の設置・運営について」という文部次官通牒が出されたのが、昭和21年7月5日のこと。そのわずか2カ月後の9月8日、これに基づく全国初の公民館が妻籠に設立されたといわれています。妻籠公民館には、昭和21年9月8日という日が刻まれたわら半紙にガリ版刷りの「妻籠公民館々則」が今でも大切に保管されています。

終戦直後、村の自給率が3分の1程度しかなく、村人は青年クラブを組織して近隣の村から食料や生活物資を調達するなど、公民館が出来る以前に自主的に活動していたそうです。さらに当時、東京から疎開してきた米林富男（社会学者）や関口存男（ドイツ語学者）ら多くの文化人とのつながり



妻籠公民館々則

りや指導もありました。このように、全国でもいち早く妻籠公民館が設立された背景には、文化人と村人との深い関わりやそういった人物が集まる文化的な土壌、そして村全体に根付いていた助け合いの心とハングリ―精神があつたからではないでしょうか。

設立当時の様子



当時の様子が記された古畑さんの日記

今回、とてもラッキーな事に当時妻籠の青年団の一員として在村の文化人らと共に活動されていた古畑和一さん（87歳）にお話を伺うことができました。古畑さんは当時の様子を事細かに日記に残していて、それをもとにその時の心情や周りの様子など話していただきました。

当時、妻籠公民館の主な活動は演劇活動と社会調査だったといえます。演劇活動では、「妻籠を文化村にしよう」と、新劇運動家でもあつた関口氏

が中心となつて、劇を指導したり自ら舞台上がり役者もしたりしていました。また、早稲田大学の演劇関係者との交流もあり、村へ招いて公演を行ったりしました。その他にも、伝統的な文楽や歌舞伎などの活動も行われました。村の人々にとつて歌や芝居が身近にあつたのです。それは当時まだ幼かつた、現南木曾町公民館長小笠原宏さんの記憶にも残っていたようで「昔、わたしら子ども達の前で和一さんが歌ってくれたのを今でも覚えていますよ。」と一言。それではと、和一さんにリクエストしたところ、「初恋」と「朝」という曲を披露してくれました。少し照れながら立ち上がったと思つたら、驚くほどの声量で力強い歌声を披露してくれ、聴いていたら、なにか熱くこみ上げるものを感じました。こうした活動が、子ども達や村全体にも受け継がれてきているのだと思えました。

社会調査としては御料林対策の村民大会が開催されたり、米林氏や関口氏による文化講座が設立直後から積極的に行われていた様子が古畑さんの日記からもうかがい知る事が

出来ます。また、生活改善のため、村民の状況調査を実施して、かまどの修復や炭やまきの調達など、ごく身近な問題に取り組んでいたようです。



当時の公民館設立お話を古畑和一さん（87歳）様と話をした古畑和一さん

脈々と受け継がれるもの

今回お話をうかがつて、設立当時の公民館活動の意義が今に受け継がれているものがあるように思います。それは、公民館活動で一番大事なのはそこに住む「人」であること、また、生活に密着したごく身近な問題に取り組んでいくということ、そして、仲間との学習と実践を通じて地域をつくっていくということです。これらは、時代を経ても受け継いでいきたい公民館の命なのだと感じました。



妻籠宿の町並み

問題 考える みんなで
権考 仲良くなる

我々が6年2組!!

中央小 新田 千枝

私のクラスにはイイ所が沢山あります。

その一、思いやりのある人が多いところ。男子も女子も気を利かせて動いてくれる人が沢山います。いつもアリガトウ。

その二、明るく優しい人が多いところ。急にやる事になったドッジボールでは特に男子が勝つ気満々。ボールを取ろうとしては当たったり、ひやひやするプレーをしたり。やってる途中、私の頭にボールが当たって尻もちをつくと、「だいじょうぶっ!」と笑いながら友達が手をかしてくれました。ボールを当たった友達は悪びれもなく「すまーん!」

と言ってくれました。みんな優しい!

その三、面白い人が多いところ。ある日

「俺は太陽の光を浴びてイケメンになる」と友達に顔を浴びてドヤ顔をしました。ホント面白かつ

た、けど顔半分しかイケメンになってなかったんだよ!残念だよ!!

その四、男女共に仲が良いところ。そう思ったのは休み時間、男子と女子でサッカーをしているのを見た時でした。

「千枝ちゃんもサッカーやる?」誘ってくれて嬉しかったけど、私はやんない、と答えました。誘ってくれたのは男子でクラスとの絆が感じられた瞬間でした。

2組は、他の組に比べて忘れ物が多いし、クラスのルーをちゃんと守れていないです。

でも、やる時はやるクラスだ!と私は2組になって何度も思ったんです。忘れ物、たつて0が最近続出し、反省すべき所があるのなら直す努力をするし、先生の期待に応えようともしています。

運動会、組体操の練習で先生が言った言葉

「本気でがんばって下さい!」私は今でも覚えています。本気でがんばるのは組体操だけじゃなく『今』もなんだよ。直さなきゃいけない問題、いっぱいあるよね。

『まだまだこれからも本気でいこうぜ2組!!』

生涯教育のメッカ

松川青年の家だより

その十五

ふるさと探検シリーズ3
「片桐松川探検」

夏真っ盛りの8月4日に片桐松川の上流探検講座を行いました。

普段目にしたたり、遊んでいる地元の代表的な松川でも、その上流はどうなっているのか、私たちの生活とどのような結びつきがあるのかあまり知られていません。そこで、暑い下界から離れて水しぶぎの上がる涼しい世界を求めて、私たちは片桐ダムからさらに上流へと足を進めました。

私たちが守ってくれている砂防堰堤

今回は8名の男子小学生と父子1組と成人女性(1名)の参加者に国交省天竜川上流河川事務所から指導者として菊池砂防調査課長が加わっていただき、合計15名(青年の家職員3名)で探検隊を結成しました。まず、片桐ダムでバスを降りて、これから入っていく谷や烏帽子岳を遠望してから歩き始めました。最初



は上流の砂防堰堤を建設したときの工事用道路を歩いたのですが、草木が生い茂っているうえ、大量

いくらぐらいかかりましたか?」とか「いつ造ったのですか?」と真剣に質問をしていました。きつと、これらの砂防堰堤によつて、私たちは洪水や土石流から守られていることを学んだのではないかと思います。

真夏でも渓谷は「寒かった」

の岩や土砂が崩落したり沢が氾濫したりして、奥山へ入ってきた感じがしました。20分ほど進むと私たちはうっそうとした林から抜け出して、急に目の前が明るくなりました。松川の流れに出たのです。そこは第3堰堤のすぐ上だったので、参加者は堰堤の上立ち40mほど落差のある底をおっかなびつくり覗き込んでいました。

そこから川を渡渉しながら700mほどさかのぼると今回の目的地である一番奥の第4砂防堰堤の巨大な姿が目前に現れてきました。それは2つの巨大なコンクリート壁が連続し、その左岸には大きな岩壁(燕岩)がそびえ荘厳な眺めでした。そこから落ちる水しぶきを浴びながら、菊池課長から砂防堰堤の役割や構造についての話を聞きました。参加した子ども達も「工事には



砂防の勉強の後は溪流での水遊びです。堰堤から落ちる滝の下にもぐりこんで水に打たれて修行の真似をしたり、背が立たないような大きな淵に岩の上から飛び込んだり、早瀬の中に身を任せて流れてみたりと思う存分溪流遊びを楽しみました。しまいには水の冷たさに「寒い寒い」と言いながら口びるをガタガタ震わせて、夏の日に照らされて熱くなっている石に座って暖をとる(?)子どもたちでした。このように真夏の暑さを忘れ、楽しい時間を過ごすことができました。一日でした。

冬到来!!

はりきってスポーツ

平成24年度 早起き野球リーグ戦

平成24年度早起き野球リーグ戦の閉会式が12月10日に行われました。結果は次のとおりです。

- 優勝 松川ファイターズ
- 準優勝 平成トンネルズ
- 3位 松川メッツ



第8回飯田・下伊那 市町村対抗 駅伝競走大会

12月2日に飯田市川路・天竜川総合学習館「かわらんべ」周辺を会場に、飯田・下伊那市町村対抗駅伝競走大会が行われました。第1回から松川町の連覇

が続く結果となりました。

総合優勝

フルーツ満タン松川A

1時間17分17秒

1区 2.6 km

8分49秒

2区 6.1 km

18分43秒

3区 3.8 km

10分58秒

4区 3.8 km

11分18秒

5区 2.6 km

9分9秒★

6区 6.1 km

18分20秒★

(★は区間賞)



天地いっぱいにかされて～人生を光あふれる方向へ～ まつかわ大学 第3講座

師走に入り、肌寒い風が吹く中、まつかわ大学第3講座が講師に塩尻市無量寺東堂、青山俊董氏をお迎えし12月1日（土）に行われました。講座の前には、松川吹奏楽団による演奏もあり、音楽で癒され、青山氏の深い内容のお話に、慌ただしい日常を忘れることのできる大変貴重な午後のひとときとなりました。

青山氏は松川町の弥勒寺とのつながりもあり、今回の講座も縁によって生まれた出会いの一つでした。高齢とは思えないしつかりとした声と振る舞いで、様々な角度からわかりやすく人生についてお話いただきました。



青山俊董さん
お話をして下さった
温まる心
青山俊董さん

特に微生物は、目に見えませんが、微生物は地上の清掃役らしく微生物がいなかったら地上はゴミの山になってしまふそうです。今までいかに自分が目に見えるものがすべてだと思っていたことに気づきました。人間の体内にいる微生物の特性にも驚きました。割合として30%悪と善がい

て、残りの40は強いほうにつくそうです。プラス思考になれば残りの40は、善の働きをすることに、病は気からといいますが、心の持ちようで状況を変えることができるのだと感じました。



時間の使い方は 生命の使い方

と、とても印象的な言葉がありました。毎日する同じ行動も義務感でつまらないと思っ

てやるのか、相手のことを思いやるのかで、同じ時間を過ごしても全く違う結果になるそうです。

12月は、1年の総仕上げでもあり新しい1年にむけての準備期間です。日常の慌ただしさに流されてしまえばそれまでですが、相手のことを思い、常にプラス思考で、一瞬一瞬を大切に生き、今を大切にすることが、人生を光あふれる方向へと導いていくことができるのと思い毎日をごしていかれたらと思います。



松川中学校ALET

アンタラミアン・エリザベス・マーガレットさん

松川中学校にアンタラミアン・エリザベス・マーガレットさんが着任されました。ニックネームは「リズ」さんです。



リズさんはアメリカのウイコンシン州生まれで、4人兄弟の一番下。日本に住む親戚のところに遊びにきた際に、日本人の温かさや日本の文化・歴史に触れ生活したいと思ったことが日本にきたきっかけだそうです。長距離を走ることが大好きで、休日にはマラソン大会に参加したり、中学校辺りから清流苑や、時には隣の高森町まで季節を感じながら時間を忘れて走ることもあるそう。

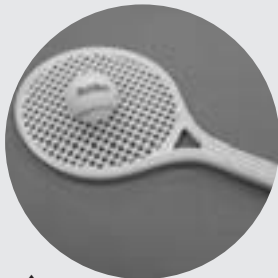
松川町の印象は、家族のように親しくしてくれる方が多く、自然に囲まれ空気がとてもおいしいとのこと。松川町の果物のおいしさにびっくりしたそうで、今の時期は一日一個のりんごを欠かさないといいです。今後の抱負は？と伺うと「とても親切にしてくれる松川町の皆さんに感謝の気持ちでいっぱい、これから茶道や空手、弓道など日本の伝統文化やスポーツに挑戦してみたい」と笑顔で語ってくださいました。

スポーツ フェスティバル

参加者募集

2月16日(土)

場所：町民体育館トレーニングルーム
時間：午後1時00分から
内容：スポレック
囲碁ボール



【スポレック】
誰にでも出来る
テニスに似たスポーツ

▼【囲碁ボール】
身体だけでなく
頭も使うゲーム



こころの詩

りんごのてきが作ぎょう
北小3年 神山伽水
りんごのてきかきぎょう
うをした。
大きな実のほかは、
全部とつてしまおうので
びっくり。
作っている人は、
毎日朝早くから、
夕方おそくまで
はたらいているぞうだ。
ほくだつたら毎日たくさんは
はたらけないな。
りんごのたねは、横に切ると
星のよつにならんでいる。
あんなに小さい花から
大きなりんごができるなんて
とつても不思議だ。

わたしの三年生

北小3年 北原 洸

弟が一年生になり、
わたしは三年生になった。
いつも朝早く、
さくらがいつぼくをよこす。
「おはよう。」
気持ちがいい春になったよ。
行つてうっしやい。」
と、さくらの声が聞こえる。
二年生のときよりも
漢字がむずかしくなった。
算数もほとんど
むずかしくなっている。
でも
わたしはあきらめません。
だって、
わたしは一年生のお手本に
なるんだから。

俳句

里宵灯

菅沼ますゑ(滝ノ沢)

朝かゞみ乱れ髪すき春寒し

緑陰に脚をとゞめて一茶墓碑

誰が供ら絵島の墓の菊一輪

しんくくと雪降る里の宵灯

台北の飲茶に逢ひて春紀行

短歌

北原 愛子(弥久司)

ちぎれ飛ぶ雲は何処の夕空へ

山のそびらの茜うすれり

天竜の川霧育む市田柿

友喜ぶを思ひて送る

三岳の湯秋桜揺れる秋日和

山菜料理と山女の塩焼き

山の寺チエロとハーブのコンサート

木々にこだまし静かに暮れる

農に生き農と語らう卒寿なり

飯田蕪菜を椅子にて間引く



まちの石仏 ⑳ 「蚕玉さま(6)」(瑞応寺)

蚕を供養するために建立した蚕玉様。



今年度の上片桐地区文化展で、ギョウザの試食会が11月3日に行われました。ギョウザは、平成20年の地区公民館役員の皆様によって始められ、翌年はインフルエンザの流行で中止にされた経過があるようですが、今年度で4回目の開催となりました。



上片桐地区公民館 主事 長谷部 正

上片桐地区文化展での ギョウザ試食会

毎年恒例の地区文化展、上片桐の皆さんの作品を見て、本場のギョウザを味わう事もまた、楽しみのひとつです。

今年は来られなかった方々も是非来年は、地区文化展にお寄り下さい。

生東地区公民館

研修旅行について

生東地区公民館 社会部長 下澤 健治

本年度も年度当初より計画してきました研修旅行を30代の方から最年長83歳の先輩まで大勢の皆様に参加していただき実施する事が出来ました。内容として東御市にあります「おもいやり乙女平」で運営されている施設「宅養老所おひさま」と佐久市にある「地域支え合いサロン笑福庵」の2箇所を見学させていただきました。

代表の吉田所長さんからお話を伺い、参加していただいた皆さんからの質問などがあり活発な意見交換ができました。笑福庵では地域ケア総合研究所所長の竹下俊文先生から貴重なお話を伺うことが出来ました。日本各地で生東地区と同じような問題を抱える地域での活動を聞かせていただき今後の参考になったのではないかと思います。

「宅養老所おひさま」では

と



新聞の記事に、知的なスポーツ「競技かるた」という見出しを見つけた。読んでみたら、競技かるた。百人一首のこと。集中力がつき、脳が活性化し、認知症予防などの波及効果も期待できるそうです。

子どもの頃は我が家でも百人一首を楽しんでいました。そのため学生時代にあったクラスマッチでは、運動が苦手な私にとって唯一活躍できるクラスマッチでもありました。上の句を読めばすぐ下の句が出てくるように一生懸命覚え意味はわかってないのに好きな句が人それぞれあって、その札がとれなければ悔しかったりしたことを思い出します。

ここ何年も百人一首をしなくなりました。この記事を読んで句を思い出そうとしてもほとんど出てきません。あれだけ覚えたのにこれだけ忘れてしまっているとは…。普段の生活や仕事でも昔に比べ、覚えることがなかなか頭に入っていないと感じます。このお正月、久しぶりに百人一首を出してきて脳を活性化させないとな…。と思いました。

老若男女が楽しめるスポーツとも書いてありました。みなさんもこのお正月、家族で楽しんでみてはいかがでしょうか？

宮崎亜希子

公民館報
「まつかわ」
第 590 号
平成24年12月15日

発行所 松川町公民館 登
責任者 矢澤
編集人 公民館編集部
Tel 36-2622
e-mail: ckouminkan@matsukawa-town.jp
飯田市上郷黒田121
印刷所 龍共印刷(株)